

領域・小問ごとの分析	対策の視点
<p>り使用しない単位であることにつまずきの原因が考えられる。</p>	
<p>3. 四捨五入 正答率は47%と低く、誤答は、80000、77000、76、76500など多様である。 「上から2けたの概数」の意味が理解されていないための誤りである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 四捨五入の指導は、単に形式的な操作だけに終わりがちであるが、与えられた単位未満を処理する場合には、その処理できる意味をよく理解させることが大切である。
<p>4. (1) 分配法則 正答率は74%で、よく理解されている。 (2) 小数の仕組み 2.05が0.01の何倍かを問う問題である。 正答率は、71%で、誤答として多いのは、2.5倍、2.05倍などである。 (3) 分数の意味 正答率は62%で、誤答は14、13などである。これは、単位分数と仮分数や帯分数との関係がよく理解されていないためと思われる。 (4) 乗法と除法の相互関係 正答率は80%で、よく理解されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小数は整数と同様に、十進数の仕組みで表され、小数の各位の数字は、その位の数が幾つあるかを示していることを理解させたい。 単位分数を基本にして、分数の大きさを考えさせたい。 $1\frac{4}{7} = \frac{7}{7} + \frac{1}{7} + \frac{1}{7} + \frac{1}{7} + \frac{1}{7}$など具体的な変形の操作を通して理解を深める。
<p>5. 被除数 = 除数 × 商 + 余り の関係 正答率は64%である。正答は51であるが、270、5.1、2.99など多様な誤答が見られる。余りのある除法の検算としてはよく使う関係であるが、文章題からこの関係を見出すことに、あまりなれていないように思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 筆算の形式に対応させて、除法の、被除数、除数、商、余りの関係を理解させるとともに、常に除法の検算に活用させるようにしたい。